

# 第201回自然観察会 山梨兜・明神峠の春植物観察会

令和8年5月10日(日) 8:00~16:00



高山の原生林を守る会

# 観察のポイント

## 1. 植相の変化

コースは、明神道沢沿いの溪谷林、源頭部草地、明神峠（伐採地）、山梨兜に至るブナ林の4つのエリアに分かれます。各エリアを特徴づける植物を観察しましょう。

## 2. 雌雄性が分離した樹木

二つのタイプの雄花と雌花が分かれる樹木の特徴を観察しましょう。

## 3. 樹木の多様な葉形

このコースには多種類の樹木が植生しています。それらの葉の特徴を観察しましょう。

## 4. 風力発電計画の痕跡と森にもたらす影響

コースは撤退した風力発電計画の伐採跡地を通過します。明神峠からは吾妻山麓に設置された2か所の風力発電所も眺望できます。森林生態にどのような影響があるのか体感してみましよう

## 観察のための豆知識 雌雄異花（しゅういか）と雌雄異株（しゅういしゅ）

植物の“雌花と雄花の配置様式”を示す重要な繁殖形質。雌雄異花とは1つの「株（個体）」の上に、雄花と雌花が別々の花として存在する形態です。花レベルで性が分かれ、雄花は雄しべだけをもち、雌花は雌しべだけをもちます。クリ・コナラ・クヌギなどブナ科マツ・スギなどマツ科が該当します。雌雄異株は雄花だけをつける株（雄株）と、雌花だけをつける株（雌株）が、別個体として存在する様式です。雄株は雄花のみ、雌株は雌花のみ着けます。ヤナギ類、アオキ、サンショ、ヒサカキなどが該当します。

# 観察コース (歩行距離 6.0 km 標高差 430 m)



明神峠



明神山



山梨兜



シナノキアガリコ

- 8:00 四季の里駐車場
- 9:00 明神道入口
- 12:00 明神峠
- 昼食
- 12:30 明神峠
- 13:00 シナノキアガリコ
- 15:00 明神道入口
- 16:00 四季の里駐車場

ゴミは必ず持ち帰りましょう！  
植物の採取は厳禁です！！

# ブナの花

ブナ(*Fagus crenata* ブナ科ブナ属)

ブナの花は雌雄異花で雌雄同株。葉の展開と同時に開花する。雄花、雌花共にいくつかの小花が集まった集合花

雄花序は新枝の下部の葉腋から垂れ下がり、10個前後の雄花が頭状に集まってつく。花序の柄には軟毛が密生する。雄花の花被も長い軟毛に覆われている。雄しべは12個あり、葯は花被の外に出る。

雌花序は上部の葉腋に上向きにつく。雌花は総苞の中に2個入っている。総苞は4裂し、外側は線形の鱗片に覆われている。花柱は線形で3個、柱頭は赤い。



雌花序

雄花序

雌花序



柱頭



雄花序



雌花序は立ち上がり雄花序は下垂する

# 明神道でみつけた雌雄異株の樹木の花達

ヒメアオキ(*Aucuba japonica*  
*var. borealis*)

ガリア科アオキ属の常緑低木。アオキの多雪地適応型の変種。東北のブナ林ではよく見られる。

雌雄異株。枝の先端に総状花序を形成する。花弁は4枚、花弁の色は小豆色である。雄花は4本の雄しべのみ、雌花は雌しべのみで、エメラルドグリーンの大きな柱頭が目立つ。

アオキミタマバエが寄生すると果実が奇形化する。着色も不齊一となり、赤と緑のグラデーションが見られる。



キブシ(*Fraxinus praecox*)

キブシ科キブシ属の落葉高木。日本固有種。林縁や沢沿いに植生する。早春に淡黄色の総状花序を垂れ下げる。

雌雄異株。花弁は4枚、雄花は8本の雄しべと受精能力のない雌しべをつける。雌花は雌しべの周りに雄しべの痕跡をつける。雌花は花弁が緑を帯び花序も雄花より短い傾向がある。



5

キツネヤナギ(*Salix vulpina*)

ヤナギ科ヤナギ属の落葉低木。細長い花穂(尾状花序)を直立させる。最大の特徴は、花穂の基部や苞に狐色の毛が密生する。

雌雄異株。雄花の雄しべは2本。葯は黄色～オレンジ色。雌しべの子房には長い柄があり、花穂の軸に少し離れてつく。柱頭は2裂する。

雄花序は狐のしっぽの様に伸びる。

きつね色  
の毛



# 明神道コースのスミレ

オオタチツボスミレの交雑種



スミレサイシン



ミヤマスミレ



ナガハシスミレ

オオタチツボスミレ

×

タチツボスミレ



マキノスミレ



エイザンスミレ



イワフネタチツボスミレ



ムラカミタチツボスミレ



ナガハシスミレ



ニヨイスミレ

ナガハシスミレより距が短い。距の色は白系～赤紫系に分離。花はふくよかで赤味がかかる

距が紫色・花と葉はオオタチツボスミレ型・大株になりやすい

# 葉形で見分ける樹木の種類



オヒヨウ



コミネカエデ



イタヤカエデ



ヤマモミジ



テツカエデ



シナノキ



オオバボダイジュ

似たもの同士  
 このエリアはオオバボダイジュ(積雪地帯に多い)とシナノキの分布が重なっている。両種の自然交雑により中間的な形質を持つ個体も見られる。  
 成葉では大きさで区別できるが、若葉では区別が難しい。  
 オオバボダイジュの若葉は葉裏に白い毛が密生しており、質感もごわごわしている。  
 シナノキの若葉は白毛が少なく、質感も滑らか



オオカメノキ



ヒツバカエデ



サワシバ



ヤシャブシ

## ショウジョウバカマ (*Heloniopsis orientalis*lnus)

メモ

落葉広葉樹林の林床に植生する半常緑性多年草。林冠が閉じる前に花が開花する早春植物。

花被片は6枚、淡紅紫～濃紫雄しべが長く、花被片から突き出る柱頭は3裂する。

花色の色相のレンジは広く、白(純白～淡クリーム)緑(緑白色～淡緑)ピンク(淡桃色)赤(紅色～赤紫)紫(濃紫～青紫)の個体が見られる。この幅は、環境変異ではなく、遺伝的に固定した形質差が大きく関与している。集団間の遺伝的隔離が起こりやすく、局所的な花色集団が形成される。

繁殖は有性生殖(種子)+栄養繁殖(分株)の両方を使う混合戦略型。栄養繁殖はロゼット葉の先端に子株を分化する。分類はユリ科からメランチウム科ショウジョウバカマ属に独立した。

